

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月21日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	基礎学力の充実に向け たバランスのとれた教 育課程を編成するとと もに多様な生徒の進路 希望に対応する質の高 い学習指導に取り組 み、生徒一人ひとりの 学習機会の拡大を促進 する。	①「主体的・対話的で深 い学び」を実現し、生 徒自身が成果を実感で きる授業を研究する。 ②すべての生徒の学習を 保障し、ICT を利活用 した主体的に学ぶ力を 育成するための指導方 法の工夫・改善を図 る。	①単元の「指導と評価」の 計画を立てる際に、生徒 が身に付けるべき力をど う指導し、どのタイミン グで評価するかを具体化 するとともに、生徒が ICT を活用し、「主体 的・対話的で深い学び」 を実現できる指導方法を 研究する。 ②特別募集生徒を含めたす べての生徒に対してわか りやすい、達成感のある 授業を行う。	①「指導と評価」の計画 中で、生徒が身に付ける 学力の3要素の具体的な 方策を示すとともに、生 徒が ICT を利活用した主 体的・対話的で深い学び を重点に置いた授業の研 究を進めることができた か。 ②生徒による授業評価の 「できるようになったと 実感する」の観点で 85%以上の肯定的な回答 が得られたか	①年度当初に学力の3 要素を踏まえた「指 導と評価」の計画を 立て、生徒が身に付 けるべき力を教科内 で共有した。また、 ICT を利活用した「主 体的・対話的で深い 学び」を研究授業の テーマとして各教科 で指導案を作成し、 担当者全員で授業及 び振り返りを行っ た。 ②生徒による授業評価 では、1科目を除き すべての項目で85% 以上の肯定的な回答 が得られた。	①「指導と評価」の 計画を立てる際 に、学力の3要素 を踏まえた指導内 容と評価内容、評 価のタイミングを 具体化する必要が ある。 1人1台端末を利 活用した深い学び の実現に向け、効 果的な授業を研究 していく必要があ る。 ②毎回の授業の中 で授業アンケートを 行い、授業を振り 返し、生徒の意見 をフィードバック しながら授業改善 を行う。	①研究授業について、 教科で指導案を作成 し、担当者全員で授 業及び振り返りを行 うことは良いことであ り、その振り返りを来 年度の授業改善につ なげてほしい。深い 学びの達成は、レポ ート課題や記述式の 課題など生徒一人ひ とりの回答を丁寧し て見ないと把握が難 しい。 ②生徒による授業評価 で肯定的な評価が80% を超えていることは、 高評価であり、授 業改善の成果が生 徒に具体的に反映さ れている。毎回の授 業アンケートの実施 など生徒の状況把握 に努め、一層の授業 改善に努めてほし い。	①学力の3要素を踏 まえた指導と評価 の計画を立て、生 徒が身に付けるべ き力を各教科で共 有した。思考力、 判断力、表現力の 観点を高める授業 計画を各科目で更 に考えていく必要 がある。また、研 究授業を通して教 員同士の授業見学 を行い、端末活用 方法を共有し、素 早く情報を収集し、 まとめ、発表 する主体的な学び の授業ができるよ うになった。 ②生徒による授業評 価では、前年度よ りも肯定的な回答 がやや低い数値と なったが、授業の 振り返り等を行い改 善したい。	①更に「深い学 び」につなげる ための指導計画 を立て実践する とともに、「深 い学び」につい ての評価方法も 研究する。また、 1人1台端 末を利活用した 主体的な学習活 動から深い学び につなげられる 指導方法を研究 する。 ②各教科で授業の 振り返りを行い、 生徒の意見をフ ィードバックし ながら授業改善 につなげ、生徒 の主体的に学ぶ 力を育成する。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①自転車乗車マナーの 向上を積極的に進 め、交通安全に対す る取組を組織的に推 進する。 ②生徒の自主的・主体 的な活動を支援し、 豊かな人間性や社会 性を培う活動内容の 充実を図る。	①自転車の事故防止とマ ナー向上の指導を行 う。 ②生徒会活動を支援し、 生徒が自主的・自発的 に諸活動へ参加でき るように取り組む。	①地域や外部機関と連携を 図り、年間を通じて交通 安全指導を実施し、交通 安全に対する意識を向上 させる。 ②生徒会、委員会及びボラ ンティア活動を活性化す るとともに、Twitter な どのソーシャルメディア などを活用し、部活動や 生徒会本部の活動を発信 し、更なる活動の充実を 図る。	①意識向上により事故件数 を減らすことができた か。また、近隣住民から の苦情数が減少したか。 ②生徒会、委員会、ボラン ティア活動へ生徒の自主 的・自発的な参加を促す ことができたか。また、 Twitter などのソーシャ ルメディアを活用するこ とで中学生や地域住民が 本校の生徒会活動に興 味関心を持つことが できたか。	①交通安全に関する意 識は向上している と思われるが、近 隣の方々からの苦 情は変わらず多い。 ②生徒会活動では、特 に行事において自 主的に参加を促す ことができた。また、 生徒会本部と各委 員会が中心となり 麗鶴祭の企画・運 営を行った。文化 の部では、PTA の 協力を得ながら後 夜祭後に花火を打 ち上げることが できた。	①行事やホームルー ムでの指導など、 交通安全に関する 指導を根気強く継 続する。 ②ボランティア活 動の参加が生徒会 本部中心となっ ているため、委員 会を中心とした運 営とする。また、 行事の企画・運 営を生徒会本部 や委員会を中心 となり活動でき るように働き かける。	①自転車マナーにつ いて、二人乗り、 傘さし運転は見 かけなくなった が、住宅街で スピードを緩め ず危険な場面 を見た。大事 になる前に今 一度交通安全 の徹底をお願 いする。 ②麗鶴祭後の花火 は、地域で好評 であった。自治 会を通して宣 伝するなどし て、地域をつ なぐ機会、夏 の風物詩に できるのでは ないか。ボラ ンティア活 動では、公民 館等で尽力 いただいでい る。今後も 協力してほしい 。また、良 い活動なの で、参加者 以外の生徒 への周知や、 ホームページ 等で発信を した方が良 い。	①交通事故件数は減 少しているが、近 隣住民の方々 からの苦情は 変わらず多い。 自転車事故 防止とマナー 向上の指導 について更 なる工夫が 必要である。 ②生徒会、委員 会、ボラン ティア活 動については、 コロナ禍 以前に行っ ていた活動 に戻って きている。更 に生徒が 主体的に 活動でき る取組を行 っていき たい。	①交通安全、自転 車の事故防止 とマナー向上 の指導につ いて、継続 する内容 と新たな 対策を具 体的に考 える。 ②生徒会本部、 各委員 会の委員 長、部活 動の代表 が連携を 図り、生 徒会活 動の現 状を把握 し、その 発展に 必要な ことを 整理す る。

	視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月21日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	社会的・職業的に自立できる力の醸成を図り、生徒一人ひとりが主体的に進路を考える姿勢を育むキャリア教育の充実を推進する。	①進路実現に向けたキャリア教育実践プログラムを充実させる。 ②特別募集生徒の進路決定に向け、教科「職業」や面談の内容の充実を図る。	①キャリア教育に関する取組を精査するとともに、外部機関との連携に向けた計画を立て、実践する。 ②ソーシャルスキルトレーニングや面談を通じて、進路に向けた意識を高める。	①目標や計画を可視化し、生徒一人ひとりが意識を持って取り組む支援ができたか。 ②生徒一人ひとりが、自分の特性を理解し、進路に対する意識を持つことができたか。	①個別指導を中心に、生徒一人ひとりの目標を確認しながら進路支援を行った。また、探究活動で、進路実現に向けた取り組みを継続的に行った。 ②「職業」の授業で、ロールプレイや調べ学習を通して、生徒の進路意識を高めた。また、面談時に進路の進め方を確認し、進路決定に向けて取り組んだ。	①3年間の進路計画(グランドデザイン)を策定し、多様化、複雑化する社会の中で、自立する力を組織的、系統的に醸成する。 ②進路の方向性がなかなか定まらないケースがあった。3年間を通しての進路指導の進め方について、面談で確認する内容の整理を行う	①高校生は将来の選択肢がたくさんあるので迷うように思う。教員が話すより、身近な先輩たちに実体験を通して話してもらうと目標が明確になるのではないかと。 ②卒業式での式歌の合唱は、すべての生徒が参加した素晴らしいもので、成長を見ることができた。保護者としても、卒業してよかったと感じている。	①希望を追求する姿勢と学力を身に付けるよう個別指導の充実が必要である。また、進路情報の共有が、多様化する入試制度に追いついていない。 ②今年度は進学、一般就職、福祉就労と進路先が多岐にわたり、福祉就労はSSWの支援を受けた。また、生徒・保護者も進路の方向性を決めることに困難な様子が見られた。	①生徒の実態と時代に合った進路指導を行う。また、定期的な研修やICTの利活用で、全職員がリアルタイムで情報共有できるシステムを構築する。 ②「職業と生活」で進路意識を高める授業内容の検討を行う。また、保護者に対し個別面談を継続し、進路説明会の方法や内容を検討する。
4	地域等との協働	P T A との連携、地域、企業の教育力の活用などにより学校理解の促進を図るとともに、地域に開かれた地域とともにある安全・安心な学校づくりを進める。	積極的に地域の人材を活用し、教育活動の充実を図り、地域に本校教育活動の理解を図る。	①生徒会、P T A、自治会等が連携し地域の行事へ協力し、地域の要望を踏まえた地域貢献デーを実施する。 ②HPの更新に加え、Twitterを新設し、積極的に情報を発信し、本校についての理解を図る。	①地域の力を活用し、連携事業を実施できたか。また、地域のニーズを踏まえた地域貢献デーを実施できたか。 ②校内の各グループ等のHP担当を中心に、本校の情報発信を積極的に行うことができたか。	①初めて3学年全員で地域貢献デーを行った。また、PTA・生徒会がコロナ明け久しぶりに地域の祭に参加することができた。 ②情報発信に課題が残った。地域との協働はボランティア活動を中心として、地域との繋がりができた。	①地域貢献デーの実施時期の調整及び地域の祭への更なる協力体制作りを行う。 ②各行事、委員会や部活動の情報を積極的に発信するため、公式のSNSを活用する。また、文化祭後の花火は地域住民も学校の敷地内で鑑賞できる準備を整えたい。	①地域貢献デーは、地域とつながり、地域と共にある学校づくりを進める上で今後も続けてほしい。地域の祭で協力いただいた。今後も地域交流等の連携事業を望む。 ②ホームページは、見たいものを探すのが難しく、改善した方がよい。また、キャラクターもあるので、活用してはどうか。	①昨年度までは1年生を対象として行っていた地域貢献デーを、初めて全校生徒で行うことができた。また、P T A も4年ぶりに地域の祭に参加することができた。 ②ホームページの更新は行事担当を決め、見やすいものとし、本校のキャラクターを活かす。また、SNSを活用し生徒会活動をリアルタイムで発信する。	①地域貢献デーは、3学年それぞれ地域のニーズに合う時期を調整し実施し、地域の祭への参加は、生徒会と相談し更なる協力を模索する。 ②ホームページの更新は行事担当を決め、見やすいものとし、本校のキャラクターを活かす。また、SNSを活用し生徒会活動をリアルタイムで発信する。
5	学校管理 学校運営	①生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化するとともに、地域と連携した災害時の体制整備を研究する。 ②教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。また教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む組織の育成を図る。	①生徒及び職員が参加するDIG研修や防災訓練を実施するとともに、災害時に学校としてどのような貢献が出来るかを模索する。 ②持続可能な学校運営と教育の質を高めるために、教員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	①生徒・職員の安全を確保しながらの地域貢献について、具体的な要望を、学校運営協議会等を活用し調査する。 ②期間を区切り年次休暇の取得状況を確認し、職員に対して計画的な取得を促すとともに、教員の長時間勤務の改善に取り組む。	①DIG研修、防災訓練を、より実践的に実施できたか。また、災害時の地域貢献について、具体的な活動を明らかにできたか。 ②年次休暇を15日以上取得(時間単位を含む)できたか。また、1月あたりの時間外在校等時間が80時間を超える職員数を0にできたか。	①生徒・職員に対するDIG研修・防災訓練は予定通り実施した。災害時の地域貢献は、具体的な活動を明らかにすることができなかった。 ②62%の教職員が年次休暇15日以上を取得(3/18現在)。また、7月に1名、時間外在校等時間が80時間を超える面接を行った。	①「余震」を考慮した防災訓練を行う。災害時の地域貢献については、ボランティア活動としての方法を探りたい。 ②年次休暇の取得、時間外在校等時間縮減は、今後も引き続き定期的な周知と業務効率を上げることで向上を目指し、更に教員の働き方改革を推進する。	①災害時の活動は、地域を知ること、自治会を通じて地域と連携することが大事である。 ②教員のワークライフバランスの充実を推進するためには、業務をできる人に任せきりにするのではなく、複数の担当者を置くなど管理職が声かけを行い、サポート体制をつくる必要がある。また、業務量の調整したり、業務の優先順位をつけないとなかなか進まない。	①DIG研修、防災訓練は予定通り実施したが、余震には対応していなかった。また、災害時の地域への貢献は、ボランティア形式で何が出来るか調査したい。 ②教員のワークライフバランスの充実に向けた働き方改革の推進として、年次休暇の取得促進、時間外在校等時間縮減は前進した。更に業務負担の偏りに関して改善が必要である。	①余震の研修を実施するとともに、どのような訓練を行うべきか調査する。また、災害時のボランティアについて、中身、呼びかけ方法を検討する。 ②年次休暇の取得促進、時間外在校等時間縮減は、今後も定期的な周知などの取組で向上を目指す。また、業務の偏りの是正を組織全体で行う。